

名瀬保健所での3年間の 保健師活動

鹿児島県高齢者生き生き推進課
豊倉

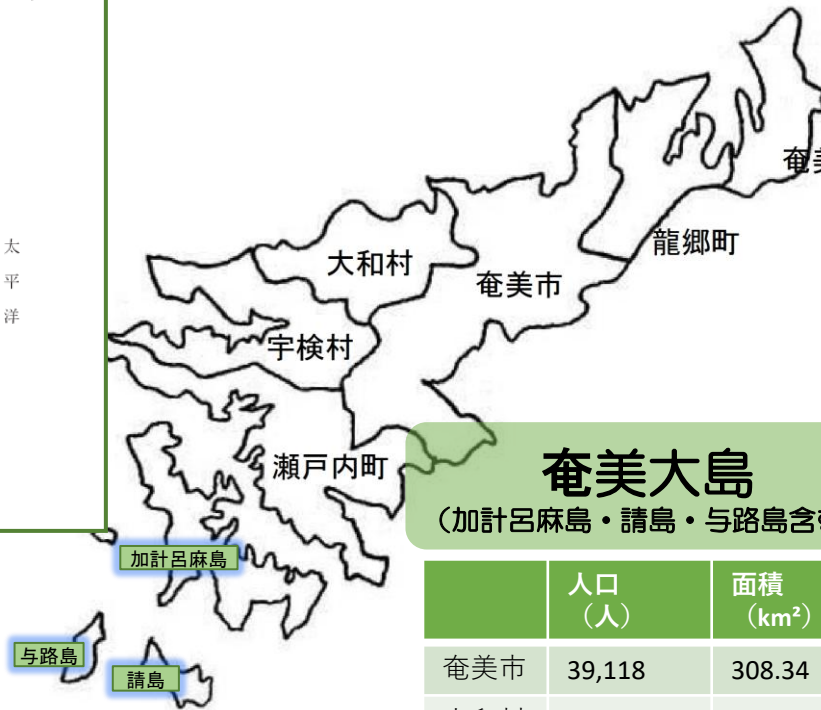
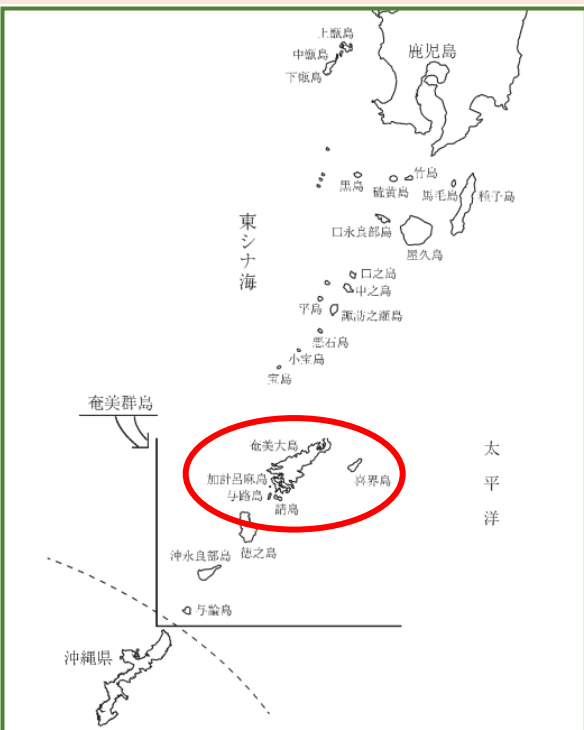
自己紹介



- 保健師 4 年目
- 初任地：名瀬保健所（奄美大島）
 - 1 年目：企画管理係（職員の健康管理など）
 - 2 年目：疾病対策係（結核など）
 - 3 年目：健康増進係（介護保険、母子保健）
- 今年度より本庁高齢者生き生き推進課
認知症・生活支援係



名瀬保健所管轄区域について



名瀬保健所管内
 ○1市3町2村
 合計6市町村
 ○人口 61,674人
 ○高齢化率 37.0%
 (令和7年10月1日時点)



喜界島

	人口 (人)	面積 (km ²)
喜界町	6,073	56.82

奄美大島

(加計呂麻島・請島・与路島含む)

	人口 (人)	面積 (km ²)
奄美市	39,118	308.34
大和村	1,316	88.26
宇検村	1,521	103.07
瀬戸内町	7,846	239.65
龍郷町	5,800	81.82

名瀬保健所における保健師業務



【保健福祉環境部】

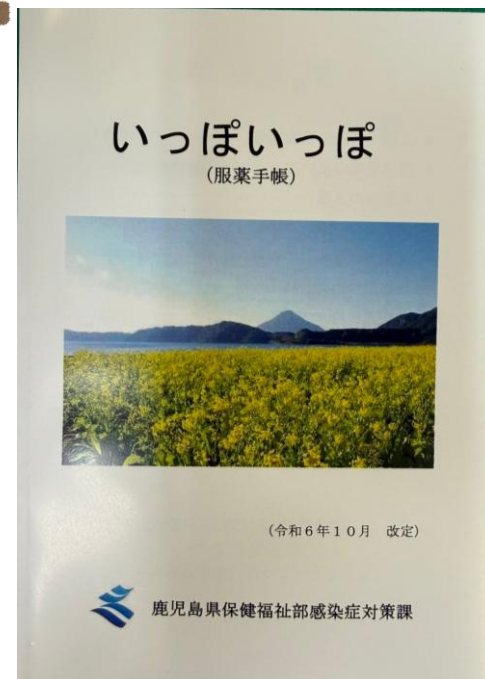
- 健康企画課：保健師 7 人（課長も含む）
 - 企画管理係：地域医療構想、人材育成等
 - 健康増進係：母子保健、介護保険等
 - 疾病対策係：難病対策、感染症予防対策等
- 地域保健福祉課：保健師 4 人
 - 地域支援係：精神保健福祉等
 - 介護指導係：介護保険事業者の指定、指導監査等

結核業務について

【主な担当業務】

- ・ 結核発生届受理・調査
- ・ 服薬支援（DOTS）
- ・ 接触者健診
- ・ 管理検診
- ・ 結核診査会

など



印象に残った事例

- Aさん（60歳代女性）

診断時：喀痰塗抹陽性G10、TbPCR陽性

既往歴：糖尿病、高血圧など

接触者健診の結果、同居家族IGRA検査陽性→未治療
電話がほとんどつながらない（本人・家族）



- かかりつけ病院や包括支援センターと連携
→治療を完了させることができた
- 訪問や受診同行を継続
→本人は治療終了、家族も内服を開始する

- 対象の生活を多角的にみて支援することの大切さ
- 関係機関との連携の大切さ

介護保険関連業務について

【主な担当業務】

- ・ 在宅医療・介護連携推進事業
- ・ 認知症施策推進事業
- ・ かごしま介護（総合事業）推進事業
- ・ 保険者指導
- ・ 要介護認定等に関する研修事業



在宅医療・介護連携推進業務

奄美大島・喜界島在宅医療・介護連携推進に係る情報共有検討会の開催

参加者：医師、看護師、医療SW、居宅介護事業所や地域包括支援センターのケアマネジャー

内容：脳卒中の事例を元に、具体的な入退院時の連携の進め方について検討。

- ・ 多職種連携の重要性
- ・ 顔の見える関係づくり
- ・ 地域全体でその人らしい生活を支える体制

2025年10月発行 奄美大島・喜界島 医療・介護連携推進ニュース

第9回医療・介護情報共有検討会

今年も開催！

第9回奄美大島・喜界島在宅医療・介護連携推進に係る情報共有検討会
日時：令和7年7月31日（木）18時30分～20時
場所：メイン会場（奄美市役所5階大会議室）サテライト会場（喜界町役場多目的室）



退院事例を元に具体的な入退院連携の進め方について意見交換する参加者

退院時連携のグループワークで出た意見

退院に向けた全体の課題・目標

- 本人のリハビリの目標と意欲の確認
- 本人・家族の在宅復帰が可能な「共通認識の確認
- 自宅での生活のイメージや現実とのギャップを埋める確認
- 再発防止 医療の継続 制度活用などの包括的支援の検討
- 多職種連携のポイント
- 入院中の情報を正確に共有すること（リハビリ職、看護師、医師、医療ソーシャルワーカーなど）
- 退院前カンファレンスの開催と関係者の集結
- 自宅での生活イメージや現実とのすり合わせ
- インフォーマルなサビラスを含めたケアマネ中心のチーム体制の構築

再発予防の視点

- 服薬管理の徹底（薬の種類、量・管理者の確認）
- 家族や患者の不安軽減、相談支援（福祉用具の活用）
- 家族への指導・介護負担軽減、訪問診療の把握（福祉用具の活用）
- 定期的な医療関係受診・フォローアップ体制の確立
- 日常生活でのリスク管理（転倒予防、皮膚トラブルの防止）
- 多職種での情報共有と連携（歯科医師、栄養士など）

重症化予防の視点

- 食事の形態確認（嚥下リスクの評価、嚥下機能の管理）
- 口腔ケア（嚥下調整、栄養士の連携、嚥下自立支援）
- 排泄ケア（オムツの適切な交換、排泄自立支援）
- 感染症予防（入浴方法の安全確保、清潔保持）
- 服薬遵守の早期発見（言語障害、麻痺の変化等のモニタリング）
- 身体機能の維持・向上を促す介入方法の実施
- 身体的な医療・介護職との連絡と相談体制の維持

アンケートから

「口頭は目録の業務中心だが、異なる場・立場の方と交流でき、視野が広がりが大変うれしかった」

「医師は、顔の見える関係づくり、多職種の対面交流を推進する。今後、生い茂る病院内へ広がる活動が、これを今後の業務に活かしたい。皆さまに感謝（ケアマネ）」

大島郡医師会の稲会長は、閉会の挨拶の中で、多職種で集まって話し合うことや顔が見える関係の重要性について話され、今後も多職種が対面で集まる機会の参加を呼びかけた。また、2040年問題に向けて精神科病院や地域住民との連携の必要性について述べた。

サテライト会場（喜界町）

奄美大島及び喜界島地域の病院の医師、看護師、医療ソーシャルワーカーと居宅介護支援センターのケアマネジャー（以下、ケアマネ）を対象とした高齢者のアスマナシヤ（在宅介護事業所）地域包括支援センターのアスマナシヤ会では、「入退院時連携の情報共有（グループワーク）」の目的を踏まえ、アンケートの結果が報告された。続く意見交換では、脳卒中の退院事例を元に、再発予防、重症化予防の視点を含めた具体的な入退院時連携の進め方が議論された。

Ageing in place

Ageing in Placeの実現を阻害して高齢者の退院を地域全体で支えるために

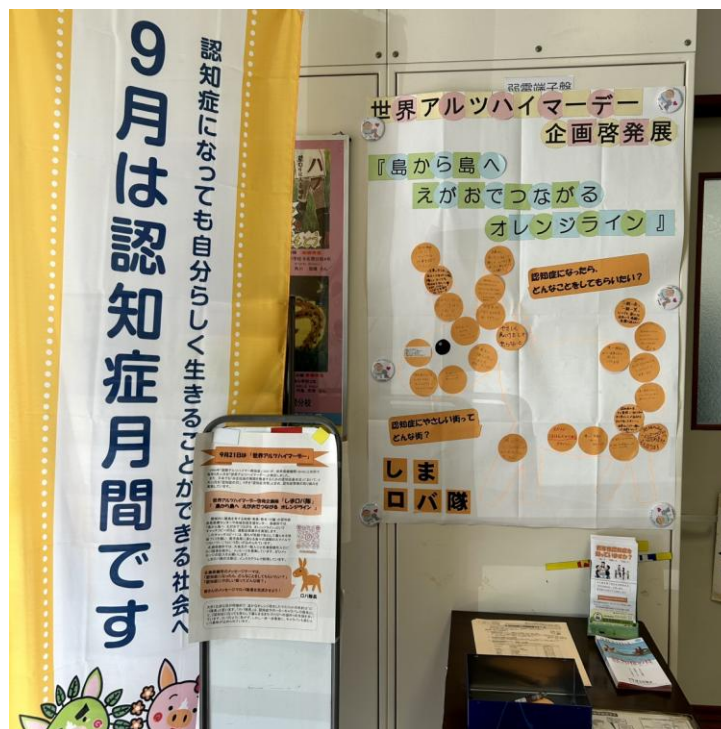
奄美大島・喜界島の在宅医療・介護連携推進業務連絡委員会

認知症普及啓発

- しまロバ隊

圏域内に離島を有する地域を中心に認知症医療疾患センターや地域包括支援センター、保健所で認知症の理解普及を図るために連動企画展示を認知症月間（9月）に実施。

↓名瀬保健所でもメッセージを集めました。



母子保健業務

【主な担当業務】

- 小児慢性特定疾病医療費助成事業
- 小児慢性特定疾病児支援事業
- ハイリスク母子保健対策事業
(広域連携会議)
- 産前から産後の切れ目ない支援強化事業
- 市町村支援
- 発育発達クリニック



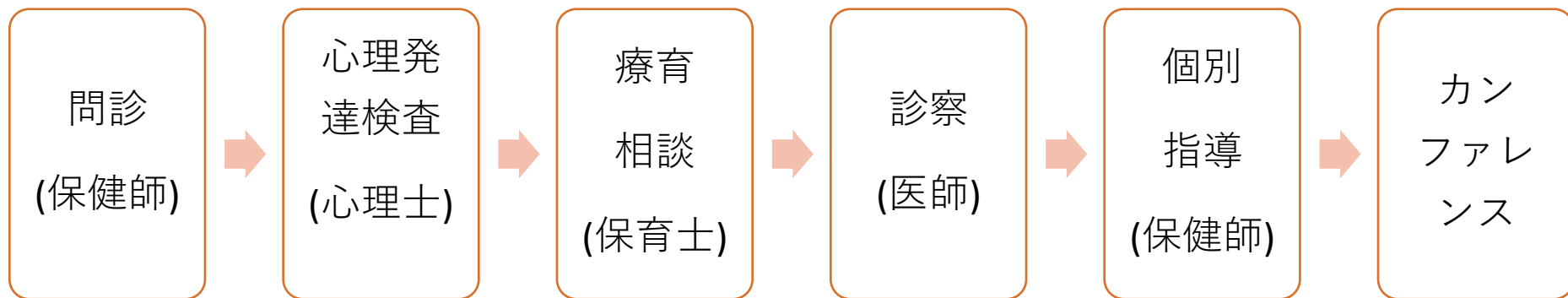
発育発達クリニック

離島保健所のみ実施

(目的)

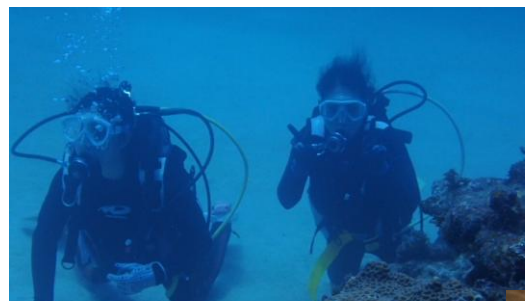
明らかな異常ではないが、発育や精神・運動等の発達に問題のある乳幼児又はそのおそれのある乳幼児などに対して、早期に専門的指導を行うほか、必要に応じて療育施設及び療育ケアの紹介を行うことにより、乳幼児の健全な発達を促進する。

(流れ)



離島勤務でよかったこと

- 島ならではの自然や文化、地域行事などを味わうことができる
- 地域住民のあたたかさ
- 他の島にも出張がある




3年間の勤務を通して



- 毎年度担当係が変わり、戸惑うこともあったが、周りの方に支えられながら業務を行うことができた。
- 幅広い業務を経験することができた。
- 離島の魅力を知ることができた。
- 今後も地域を理解しながら相手に寄り添った支援ができる保健師を目指したい。



A photograph of a mangrove forest. The trees have thick, dark, gnarled trunks and dense green foliage. A narrow path of water runs through the center of the forest. A semi-transparent white rectangular box is overlaid across the middle of the image, containing the Japanese text "ご清聴ありがとうございました".

ご清聴ありがとうございました